

大阪市長「記者会見」と大阪日日新聞・木下記者

大阪市役所1階の市民情報プラザは、貴重な情報収集の場であり、「仕事場」である。大阪市会議事録や報道発表資料、大阪市政資料などを定期的にチェックしている。ネットからも入手できるが、やはりページをめくって、必要なところをコピーするほうがいい。

久しぶりに写真の「大阪市長会見全文」ファイルを手にとった。松井前市長のときは、記者会見での強圧的な市長発言が市政を揺るがすこともあり、定期的にチェックしていたが、横山市長になってからは就任の会見以来だ。

定例会見は、まず市長から主な施策などの発表があり、幹事社に続き、記者からの質問を受け付ける。松井市長時代から、居並ぶ記者のなかで、大阪日日新聞の木下記者が突出して質問していた。木下記者はIRカジノや万博など、他社があまり取りあげない市政の重要課題について、独自の取材にもとづいて鋭く質問していた。しつこく迫る木下質問に対して、松井市長が辟易している様子が会見録からも伝わってきた。

6月22日の会見録は、木下記者が夢洲IRカジノについて横山市長に鋭く迫っているのので、質疑を要約して紹介したい。

記者はIRがカジノに依存し過ぎている問題を提起したあと、実施協定を結ぶまでに、国交省からも指摘があった住民への説明、双方向の説明会を開催するかどうかを質問。市長は国の方からも住民理解の強化について意見、双方向の開催ということも出ているので、IR推進局中心に進めていきたいと。記者が横浜市でのIR検証報告には、収益と社会的コストの両方から説明していくべきだと書かれているが、コスト面からも説明するかと問うと、市長は検証報告は目を通してないが、住民の皆さんが不安に思う点をしっかりと丁寧に対応していくと答弁。

次いで、記者は夢洲のIR用地の地盤沈下について、大阪市の埋立材とか、そういうものに起因するもの以外のところは、大阪市は払わないという話を議会の答弁でも常々されている。ただし、その前に前提としてという言葉を使いますね。前提の意味をお聞きしていると、まだ実施協定まで結んでいないから、そこは前提と言ってますみたいな話ですけど、これ、実施協定でこの前提が変わってしまうということもあり得るのではないかと思います。これに対して市長は、これまでの議論通り今協議は進めている。788億の中で工事を進めてもらうというので今進めている、と答弁するだけであった。

木下記者の質問は、IRカジノ誘致の核心に迫るものが多く、それは記事に反映されている。大阪日日新聞が休刊となり、木下記者のいない市長会見が気になるところだ。

(2023年8月7日)

